

＊2年度の改善プランの検証

正答率は全体的に目標値を上回っている。子ども達自身が学習問題を立て、単元を通して学習計画を立てて学習の見通しが鮮明にすることが、学習の定着につながったと考えられる。一方で、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、意欲的に取り組む児童とそうでない児童の二極化が前年度より続いている。映像資料やタブレット端末の活用など、積極的にICTを利用した学習活動を展開していくことで、児童の学習への意欲の向上を図っていく必要がある。また、全体として資料を読み取り、考察する力が低下している傾向にあるため、地図の読み取りや複数のグラフや表の比較など、積極的に資料を活用した学習活動を積み重ねていく。

＊3年度の改善プラン

観点	児童の実態（今回の調査における分析を含む）	明らかになった課題	具体的な授業改善案		
知識・技能	三年	・地図記号や地図に対する興味が高い児童が多い。方位や地図記号といった地図の読み取りに関する知識が定着していない。	・資料から情報を読み取る力が弱い。 ・地図上の土地の様子や、建物の位置を方位を使って表現できない児童が多い。	・四方位・八方位を使って地図上の場所を説明させるなど、方位を意識させる場を設け、知識を定着させていく。 ・タブレットも活用し、日頃から、地図や地図記号に楽しく触れられるよう、ゲーム化する。	
	四年	・地図記号や方位の理解、記号や方位をもとに目的地を読み取る力があまり定着していないことがわかった。 ・昔と今の道具についての理解が90%を超えている。 ・あんぜんなくらし「火事」が平均値を下回っている。	・地図記号の理解、方位、地図から探し出す力が特に低い。	・学習の中で地図帳を活用する機会を増やす。地図記号を目にする回数が増やす。 ・社会の学習以外でも地図帳の効果的な活用を図る。	
	五年	・「地図の見方」や、「くらしをささえる水」、「自然災害（地震）からくらしを守る」についての理解は、平均値を上回っている。	・「ごみのしよりと利用」では、毎日の生活での取り組みに着目して共通項を捉え、その目的を表現することが、特に低い。また、地図の位置や名称の理解も不十分な面が見られる。	・自分の日常生活に置き換えるなど、生活に身近な面から考えさせることで、理解につなげていく。 ・地図の見方は理解しているので、その地域について調べるなど、関心をもたせることで理解につなげていく。	
	六年	森林の学習の定着度が低く、正答率が低かった。 自動車工業のプレス工程についての問題の正答率が低かった。	森林や自動車などの産業に対する知識の定着があまりいところがある。	社会科見学が感染症対策として実施できなかったため、見学を通して実感を伴う理解が少なかったように思う。今年度は感染症対策をしながら実施するとともに、ICTによる映像資料などを活用していくことで、学習の補填を図っていく。	
社会	思考・判断・表現	三年	・地図や写真に対して、興味をもっている。 ・地図や写真などの資料から、情報を読み取る力が弱い。	・区全体を見渡して考え、町の位置や特徴、土地の様子について捉えることが難しい。 ・資料から読み取った事実の背景にあるものなど考察する力が弱い。 ・資料から読み取ったことを、言葉に表現することが難しい。	・地図や資料から読み取ったことを、表現したり、話し合ったりする活動を多く取り入れる。 ・タブレットも活用しながら、分かったこと、考えたことなどを共有し合えるような話し合い機会を設ける。
		四年	・店の立地や利用について捉える力があまり定着していなかった。	・問題に対して、資料との関連があることを理解できていない。資料から考える力、読み取る力が定着していない。	様々な資料を活用する。また、そのような機械の際には、①資料を見て気が付くことを書き出す。②気が付くことを発表する中で問題を再度問い直す。③関連があることに気が付くことができるようにする。このような展開を意識して繰り返し指導する。
		五年	・地図の読み取りは、よく定着していた。 ・資料の読み取って判断する問題が、目標値よりも低い。	・「北海道の位置や名称」、「年表の読み取り」、「『くらしをささえる水』での、資料を活用した取り組みや活動理由の表現」など、全範囲にわたって、資料を捉えて判断する力が身に付いていない。	・資料の読み取り方や、資料から考えられること等を社会科の時間にしっかりと押さえることで、資料の活用力を身に付けていく。
		六年	複数の資料を同時に読み取って考察する問題の正答率がやや低かった。（輸入の問題や、工業地帯の問題など）	複数の資料を比較し、共通点や相違点を見つける力が不足している。	日ごろの授業から資料を丁寧に扱い、複数の資料を用意して比較させる活動を取り入れていく。
主体	三年	・地図や写真、絵等の資料を読み取ったり、調べたりすることに意欲的な児童が多い。 ・ノートに気付きをまとめたり、調べ学習を進めたりすることに対する意欲の個人差が大きい。	・調べ学習など、自分で課題を見つけ学習を進めることになると、学習を進められない児童がいる。	・地図や写真などの資料を用いて、身近な地域について関心を高められるようにする。 ・教師の発問だけでなく、友達と交流する機会を増やし、多様な考えに触れたり調べ学習の進め方を知ったりすることができるようにする。	

的に学習に取り組む態度	四年	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解は低い傾向にあったが、地図帳を見ることや地形を学習することが好きな児童が比較的多い傾向にある。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に身近な単元の中で、自分たちの生活にどのような関わりがあるのか考える際に、自分の考えを書くことが難しい。 ・単元が進むにつれて飽きてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用するために、動画を観たり調べ学習を取り入れる。 ・実物や体験学習を取り入れる。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界から見た日本」や、「日本の国土」に関する学習には、地図を見て国土がどこまで広がっているのかなど、関心をもって学習に取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米の生産についての学習で、資料を使っでの学習になると、飽きてしまうことがあり、学習意欲が著しく低下することがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料だけでなく、できるだけ実物や体験などを取り入れた学習活動を展開していく。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 政治など、自分の身近に感じることでできない学習だと、意欲が低いことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治に対する興味・関心が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育を充実させる。また、模擬投票や租税教室、国会、区議会の見学及び体験活動を充実させ、政治と自分の生活との関わりを身近なものとして考えられるように計画的に活動を行う。